

エッセイコンテスト 3 等賞

「フランス語とわたし」

あごう
吾郷正子

数年前アテネ・フランセの図書室で《Vers Mon Rêve (夢をもとめて)》の絵本を手にとったことがあった。キラキラと美しい宝石のような本だと思った。日・仏・英と3か国語の文がついていて小学生の少女が毎日精魂傾けて絵を描いている姿が伝わってきた。豊かな才能に驚くとともに、8歳の小さな子がこんなに一生懸命に書いて大丈夫かなあと私は考えた。今回「ドクトゥール白ひげ 対フランス交流記」を読んで父子の共同作業による本の制作の経緯を詳しく知り、誠実に積み重ねられた日仏交流に圧倒された。そして少女が成人してお母さんにもなっていることが分かり幸せな気分になった。

私は大学で第二外国語としてフランス語を学び始めたとき新しい世界を見つけた！と興奮した。そして1972年と1975年フランス旅行が実現した。その時シャルトル大聖堂近くでお土産に買った小さなカリヨンは今も澄んだ音色を響かせているし、みやげ物屋で見つけた金色に塗られたはがきサイズの額の飾り物はこの40年間あちこちに引っ越したにもかかわらず目の前の壁にピンで留めてある。そこに書かれている *Aimer ce n'est pas se regarder l'un l'autre, mais regarder ensemble dans une même direction. Saint-Exupery* 「愛するということは、おたがいに顔を見あうことではなくて、いっしょに同じ方向をみることだ。」(堀口大學訳) はすっかり暗記してしまい、サン=テグジュペリの「人間の土地」に書かれた一節だとわかった。

2007年にはグルノーブル 2008年にはトゥールへ念願かなってフランス語研修旅行に行った。各国から集まった生徒と1か月間フランス語を学ぶことはとても刺激的で夢のような時間を過ごした。その時の先生や友達とは東京で再会を果たし2011年3月11日の震災の日には「無事か？」と真っ先にメールが飛び込んできた。

その後アテネ・フランセでフランス語を学んでいるがフランスへの興味は尽きない。

そして私はいつも日本の制度はどうなっているのだろうなどフランスと比べてみる事が多く、フランス語を習うことで日本についての理解を深めたように思う。

フランスの友人たちにも日本の治安の良さ、日本の家庭料理それから、文化、技術力、医療の水準の高さ等的確に伝えていけるようになりたいと思っている。今の日本を伝える良いテキストがどんどん出てきてほしいしフランスのように日本でも夏休みの大学に行くとか世界各国から日本語を学んでみたいと思う人々が集まってキャンパスが賑わっているという光景を夢見ている。ともあれ少しフランス語に磨きをかけなければならない。今までのように楽しみながら。